

介護体験を



聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

会報第204号

平成31年1月15日発行

発行所…(有)明寿会

住所…川崎市中島1-13-3

電話044-233-0061

*1月は26日(土)です

居宅事務所提供 事例検討

*今回はケアマネージャーによる事例検討を行いました。2000年に介護保険制度が創設されて20年余り、介護保険制度の第一線で苦勞しているケアマネージャーたちの奮闘と苦悩ぶりが垣間見られました(12月22日)

A…事例検討 1件目:

101歳の高齢者が毎日通所介護等を利用することの是非について

*氏名 ○田 ○わ○様
女性 101歳

住所 川崎市○区○町

*家族状況…二世帯住宅の1階に独居、2階には娘さん(次女)が同居。子供は娘2人、長女

は長野県に在住

利用しているサービス

*通所介護、

*お泊りデイサービス、

*短期入所生活介護、

*住宅改修

◎障害老人の日常生活自立度ⅡA1

◎介助により外出。

屋内での生活は概ね自立。

◎認知症である老人の日常生活自立度Ⅲa

着替えは順番に用意し声掛けすれば自分で着ることが

水の出しっぱなし、ガスのつけっぱなし等がある。

◎介護度Ⅱ 要介護3

「主訴・経過」

平成21年12月ご家族の思いで一人で家にいるとゴロゴロするばかりなのでボケてしまうのではないかと心配され相談に見えた。ご本人は社交的な方なので楽しい所だっ

た。行ってもいいと仰り、デイサービスを週1回から開始。徐々に利用回数を増やし現在は週4回デイサービス、週3回お泊りデイサービスを利用している毎です。

年齢的にもお疲れになるだろうからと1日はゆっくりできる日を作っても

良いのでは?と提案するも毎日規則正しく生活した方が本人にとってもいいと娘様は考えられ、現在に至る。この9年間で

ADLはほぼ変わらず、認知症状は少しずつ進行している。

事例検討2件目

B…認知症の急激な進行例

*キーパーソンである夫の介護負担、疲れから虐待と思われる行為あり、褥瘡悪化と共に入院。特

養入所へ繋がった

氏名 ○様 女性81歳

住所 川崎市川崎区○

家族状況 夫婦2人でお住まい。お子様は3人おられる。

利用しているサービス

*通所介護 週5回、

*短期入所生活介護 隔週で3泊4日(随時)

*訪問介護 週1回

*福祉用具貸与

◎障害老人の日常生活自立度ⅡA1

◎認知症である老人の日常生活自立度Ⅲa

介護度 要介護3

「主訴・経過」

平成28年利用当初は歩行も自立、歩くことが好きで速度も速く、自宅でも休みの日には「歩きたい」と言いご主人もホッとする時間がないが後ろを必ずついて歩いていました。平成29年頃から少しずつ認知症の進行がみられる。トイレで排便があらうとしていいか分からず便のついた手で色々な物を触ったり、食べる事も分からず口の中で食べ物をずつと噛んで飲み込む事も出来ず、職員が常に付き添い声掛け介助、

入浴も何をしていいかわからず、自宅でも義歯をティッシュに包みゴミ箱に捨ててあったりが何度もあり、ご主人もイライラし手をあげる行為がみられ、ショートステイも利用していたが区分変更をかけ、6月特養の申し込みをした。臀部に発赤がありご主人に受診を勧めるが自分なりのやり方で処置をしたり、勝手に服薬を止めてみたり、ご主人にも認知症の症状がみられてきた。また何度説明しても理解ができなくなってきた。平成30年9月褥瘡が悪化し入院、8月末には特養の相談員さんがご本人に会って、ましようと言った下さり、面談があった。特養のベッドの空き待ち、ベッドが空いたと連絡が入り11月上旬特養入所となった。

*柳田ダイケア、デイサービス、グループホーム旭町家族相談会

柳田CM…「吉川さんの所は訪問診療入ってどのくらい経ちました?」

返事…「まだ半年は経たないか、でも非常に助かっています。月2回ですから病院に連れていかなくても医者が見に来てくれるわけですから」

質問…「一つ聞きたいことがあったんだ、居宅事務所？その言葉が理解できなくて今日お尋ねしよかなと思っていました。」

柳田CM…「居宅事務所とは介護保険の中で介護支援専門員（ケアマネージャー）がいる事務所の事を居宅事務所といいます。居宅とは施設とかではなく在宅生活する中でケアマネジメント、例えばデイサービス通うとかサービスの調整をする人がいる事務所の事です」

質問者…「今回の案内を見て普段聞きなれない言葉だったんで興味があつて。」

今の音楽療法士さんが1回できればいいですね。発展的になれば地域の方にも参加してもらえようにしたいです。」

参加者…「そうしてほしいです」「音楽会やつてる時に私もみてみたいです」

柳田CM…「是非、家族は来てください」「どういうことやってるかみて欲しいです」



『ステップ付踏台』

三々五々館の音楽ホールにステップ付き踏み台が設置されました。少し入り口に段差があり皆様にご迷惑をかけました。これからは、自分の手で『テストリ』につかまり安心して入り口に上がれる

ようになるので皆様とても嬉しそうにされています。背筋が伸びて一人で歩ける自身に溢れています。

前回の文化祭もお天気に恵まれご家族の方々がお茶やお菓子で普段お逢いしない方と色々とお話で笑顔で盛り上がっていました。

この様な機会がないと判らない事が一杯あるので毎日過ごしている施設での生活が色々とかわかって成長している事に驚かされ家でも優しくしないでとは反省する機会を戴きましたとお声がありがとうございました。

日常忙しさに紛れて、感情的に片付ける事や多いので、病人の気持ちが見えない事が良くあるのを家族に反省の『チャンス』を戴き楽しい一日と自分を見つめる一日でした。介護人が「次は私の番よね！」そう言っって病人の頭を優しく撫でていました。



三々五々館管理人 田淵

「干し柿（吊るし柿）を作りました」

和歌山県出身の利用者さんから柿の話が話題になり、子供時代お菓子も贅沢品であまり食べられなかった頃、干し柿が唯一の美味しいおやつだった事を皆さん覚えていて、「それじゃー干し柿を作ろう」と言う事になり、デイサービスで初めて干し柿を作ることになりました。

八百屋さんではなかなか渋柿が手に入らず、ネットで探してやっとう用ができました。職員も干し柿の作り方

を知らないのが本で調べたり利用者さんと話をしながら作り方を学習し、干し柿作りが始まりました。

包丁さばきが上手な利用者さんには一番大事な蒂の部分の皮むきをお願いし、それができると皆で

残りの皮をむきました。「久しぶりに包丁を持つたよ」と皆で大喜びをし、物を作っていく喜びを感じて頂く事ができました。次は、柿を紐で結ぶのですがこの作業も見た目より難しく手先を震わせながら一生懸命結んで頂きました。最後は熱湯消毒と防腐剤のアルコール消毒をして、駐輪場にワイヤーを張り柿を吊るしました。

吊るした柿は見事で綺麗な柿色です。朝日や夕日があたると本当に綺麗です。外を通る親子連れやお年寄りの方は立ち止まって「吊るし柿だよ綺麗だね」と見て行ってくれます。

利用者さんも吊るした柿を見て「綺麗だね、子供のころを思い出すね、

やつて良かったね」とご満悦です。

その約1ヶ月後、元の大きさの3分の1程になり、そろそろ食べ頃のようです。

皆で試食会です。綺麗に出来た干し柿に皆さん笑顔です。食べてみるととても甘く、予想以上の出来映えだったようで、「美味いね、こんなに上手く出来るとは。」と口々におっしゃっています。来年もまた作ろうね、と笑顔の輪が広がりました。

地域の方にも、ご利用者様にも喜んで頂き思い切つて干し柿作りを行い良かったと思います。この経験を生かし、地域の皆様とデイサービスの繋がりを広げていきたいと思っています。



デイサービス室
新井 幸二

認知症の腹証

最近、医師としてたどつたのは、腹症をきわめて認知症の対応力を高めたということである。認知症は、大脳活動の根源である大脳皮質の中の記憶関連の神経細胞群の消失が原因である。それは現代のMRIなどの装置で解明されてきた。記憶中枢に蓄積保存されていた記憶電子活動がなくなり、そこから始まるはずの求心性情報伝達が止まり、そのためその人の記憶の喪失や低下がひいては判

断力の低下をもたらす。しかし膨大な大脳細胞群には、記憶中枢以外に感情中枢や音楽中枢などもあり、その関連は未開のままである。その解明のためには日々認知症者の脇に座り、その変化を観察してゆくしかない。現場百回である。現代医学は腹皮の下にある臓器の変化を探ろうとする。東洋医学は腹症をみる。臓器の関連性である。手掌や指の腹の繊細な感覚で関聯や変化を感じ取ろうとする。人間センサーである。大工さんがかなで削った木材の表面の水平や傾斜を指で感じるとるが、それに近いものに挑戦しようとする事と同じことである。無謀な適応である。

もうひとつは認知症者の見ている感覚の分析である。見ているが、見えていない。テレビや新聞を見なくなる。つまりなくなる世界である。そこから未知の世界への徘徊が始まる。

以前に恩師である下関の頼原俊一先生が認知症者は新たな人間関係をつくらない不安になるのだといわれていた。いわゆる新たな「なじみ関係」づくりである。つまり架空の人間関係、その人にとつて安心できる関係をつくることで落ち着く。そこが自分の安心できる世界である。徘徊先の目的地である。

認知症も一つの個性？

下関の武久病院を見学したとき、同行していたお医者さんが認知症専門病棟で一人のおばあさんに掴まった。そのおばあさんは、その未知なる初めて来たお医者さんを、自分の息子だと直感したのだらう。その初対面のお医者さんの手を握つて離さなかった。大変な錯覚だが、大変な安心感が生まれていたに違いない。おばあさんの大脳皮質の神経細胞にはどのような電子活動が起きていたのだらうか？息子だと錯覚させた大脳神経細胞が活動したのは確かである。その感動中枢はどこにあるのだらうか。

そのような事をいうととてもじゃないと言われる。しかし認知症者は現代の若者よりも昔取った杵柄で、台所で包丁持ったらそれこそ綺麗に芋むきもするし、編み物させれば、その手が勝手に動くし、ぐれた能力を発揮する。ただ急速に動く社会活動、計算活動、火花を散らすような人間活動について行けないのである。認知症ワールドができて、そこで認知症が理解できる市長なり大臣が運営できる社会があれば、結構楽しく生活を送れるの人々である。ただしそこではトランプなどのような動物的な人物は指導者にはなれない。



『大建中湯 は多くの患 者さんを助 けた』

大建中湯は日本で最も使われている漢方といえる。正確にいえば2番目になる。一番は芍薬甘草湯だからである。昨年の夏は足がつかずといつて芍薬甘草湯を飲んだ人も多かった。整形外科で投薬をうけた人も多かっただろう。大建中湯は腹部外科の手術の後でもつともよく使われる。盲腸

大建中湯の證Ⅰ（後編上巻）



頭足不省、如キ毒

大建中湯の證Ⅱ（後編上巻）



蛇蟻ノ如ク腹中ヲ游走ノ癢ヲ毒

の手術した後にガスがでないで苦勞した家族は多かったろう。麻酔で麻痺した大腸を早く動かしてガスを出す作用があるといえ、わかりやすい。大建中湯は成分に特徴があつて、サンショウの果皮が入っている。サンショウはむかし回虫がいて苦しんだ人もあつたろうが、回虫を出す作用がある。駆虫薬としてもつかわれた。食べるとピリツとした味がして、いかにも内臓の働きを正常化させる感じがする。現代医学のなかでは、腸閉塞や癒着性腸閉塞など

によく使われている。この大建中湯は大腸の構造などはわからない大昔、大腸の病気がわからず、腹皮の異常としてとらえていて、当時は腹皮の異常やその変化から処方している。しかし現代医学の検査がシンポジ、大腸疾患が発見されてその手術で使われるようになり、医学が進歩してその手術後の回復に使われるようになり、現代医学の成果と古典漢方の成果が現代になって結びついていて、この30年、40年前に昔から日中友好運動がもりあがり、今日になって中国医学の夢であつた

大建中湯の證Ⅲ（後編上巻）



毒游走ノ波ヲ揚ルガ如キモノ



山椒

中西合作がやつと成果をあげてきたといえ、当時の時代を支えた人々の苦勞が成果をあげ、社会が進歩したといえる。



山椒の果皮

大建中湯の処方内容…乾姜、サンショウ、朝鮮人参、膠飴（麦芽糖）マルトース